

平成30年度 職員用アンケート集計結果（H31. 1実施）

資料4

	設 問	評価
1①	基礎学力定着のために、反復練習の指導を工夫した。	3.2
1②	算数の時間に「本読み計算」を実施した。	2.5
1④	家庭学習の量や内容を見直し、必要に応じて改善した。	3.1
1④	漢字・計算コンクール・本読み計算等を通して、基礎学力が身についたかどうかの確認をし、個に応じた指導を行った。	2.9
2①	単元構想の中に「学び合い」を位置付けて、実践することができた。	2.9
2②	ペアやグループ活動において、考えの伝え方・聴き方・つなぎ方を例示するなどの工夫をした。	2.9
2③	意欲がもてるような課題を探し出し、課題提示の仕方を工夫した。	2.9
2④	「学び合っていること」や「寄り添っていること」を褒めることができた。	3.0
3①	算数や理科の授業で、プログラミング的思考の育成を意識した授業を行うことができた。	1.8
3②	高学年で、プログラミングができるソフトを利用した出前講座を行うことができた。	1.2
3③	3・4年担任 外国語を「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しめるために、担任を中心とした授業実践を行った。	1.5
3④	5・6年担任 外国語を「聞くこと」「話すこと」に加え、「書くこと」に慣れ親しめるために担任を中心とした授業実践を行った。	3.3
4①	問題解決的な学習を取り入れたり、体験的な活動と関連付けた授業を組み立てたりしながら、計画的に授業を行うことができた。	2.9
4①	道徳の授業において、多様な感じ方や考え方が引き出される発問の工夫をすることができた。	2.6
4①②	動作化や役割演技など、児童の表現方法を工夫した授業の展開を考えることができた。	2.9
4③	道徳の授業における学び合いを通じて、児童が多面的・多角的に物事を考えることができた。	2.6
4④	ワークシートなどを蓄積し、児童の成長の様子を見取ったり、指導に役立てたりすることができた。	3.1
5①	児童が進んであいさつができるよう指導した	3.3
5②	児童会活動において、高学年が役割を果たすことができるよう指導した。（企画運営委員会、代表委員会、委員会、縦割り班等）	3.3
5③	児童が運動会、作品展、お楽しみ集会などの行事に進んで取り組むよう指導した。	3.6
5⑤	児童が安心して学校生活が送れるように、児童の心に寄り添った対応をすることができた。	3.2
6①	児童が給食後に歯磨きをするよう指導できた。	3.4
6②	食育の指導を行った。	3.1
6④	児童が、なわとび運動に目標をもって取り組むよう指導した。	3.1
7①	必要に応じて家庭や地域に向けて人材募集を行った。	2.6
7②	地域や保護者、外部の講師等、必要に応じて活用計画を立て、実施した。	2.9
7③	出前授業等の内容を次年度の参考になるよう残した。	2.6
8①	重点努力目標を常に意識して取り組んでいる。	3.1
8②	学校評価等を生かして、学校や授業改善に取り組むことができた。（学級経営案での振り返り、授業や行事などのPDCA等）	3.0
8④	各種便りや新聞、ホームページ等を通して、保護者や地域の方に学校の取組や子どもの様子を知らせている。	3.4
9①	研究授業に向けて、各部会で授業内容や指導法の検討をしっかりと行うことができた。	2.9
9②	教職員間で指導方法や指導内容について意見交換を積極的に行い、自分の授業に生かすことができた。	3.2
9③	先進校の視察や外部講師の講義などにより、現職教育のテーマに沿った研修を行うことができた。	2.8
10①	校務分掌について、仕事が特定の人に集中せず適切に分担されていた。	2.6
10②	互いに協力し合い、意見を交わらせる体制になっている。	3.4
10③	報告・連絡・相談体制が機能している。	3.4
10④	行事の精選、定時退校日・部活動なし期間の設定等の職場環境の整備やそれに伴う意識改革が進んだ。	3.0
11	学校でけがをしたり、体調が悪くなったりしたときの対応が適切である。	3.4
12	学校は、非常災害時や不審者対策など緊急時の対応ができています。	2.7
13	保護者との連絡や意思疎通を積極的に行っている。	3.4
14	学校がきちんと整備されていて、教育の場としてふさわしい。	2.7
15	学校では児童や学年に応じた働くことの意義や目的などを学ぶ機会を設けている。	3.0

